

第3回 7月23日(土)

今回のテーマは、「道具を使って個々のやる気を高める」でした。

本日の主な研修内容は、①知っておきたい行動の原理、②家庭でトークンを使う～学校との連携～、③学校でトークンを使う、④メリットとデメリットを比べる、以上4つのポイントで事例を踏まえながら、学級経営でどう生かすかを考えました。

◎ペイ・フォー・パフォーマンス

作文を嫌がる子どもたち、「つまんねえ」「外で遊びたい」「気が乗らない」

※おそらく、過去にこうしてゴネることで書かずに済んだことがある。

そこで、作文の時間に、

○子どもたちが書いた単語の数を数えて、1単語につき1点を与えた。

○授業の終わりに担任がクラス全体の獲得した点数を計算した。

○ポイントに応じて、他の時間に子どもたちの好きな活動と交換することにした。

さて、この後、この学級はどう変化していったのでしょうか？

◎事例

A君はゲームの時間が多く、宿題をまったくやっけてこなかった。また、学力も低かった。

授業中は勉強が分からないためか、他の児童にちょっかいを出して妨害することがある。そばについて教えるとそれなりに飲み込みもよいため、家で勉強すればもっと学力が伸びる見込みがあった。保護者に相談して、家庭でも勉強をすすめてみるが…

「子どもの意思を大事にしていますから」と保護者から前向きな返事はもらえなかった。

そこで、「現状のまま半年…1年と過ぎた場合どうなりそうか」について保護者と話し合うことにした。→短期的にはメリットが多くても、長期的にはデメリットが大きくなる。なぜ？

◎実践事例発表

五台小学校 根本 藍 養護教諭に、「トークンエコノミー がんばり表」の先行実践事例について紹介していただきました。成果と課題について受講者と共有することができました。



受講者からの受講後の感想の一部を以下に紹介します。

- 少人数だったので、遠慮せず気になることを質問できて良かったです。
- 実際の事例を聞くことができたり、具体的な取り組み方を教えてもらえたりしたのがとても良かったです。学校でも共有して取り組んでみます。
- 実際にトークンを活用しているのですが、今後も持続可能な仕組みづくりをするために、その児童にとっての報酬を分析したりして考えていきたいです。